

平成 25 年 度

小・中学校における
租税教育実践報告

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長
山元町教育委員会
教育長 森 憲 一

仙台南地区租税教育推進協議会の主な事業が、本年度の締めくくりとして大震災後3年ぶりに開催されました「租税教育に関する研究発表会」で見事に復活を成し遂げることができましたことに、関係者の皆様方に心より御礼を申し上げます。

あの震災は、仙台南地区租税教育推進協議会の2市2町にも甚大な被害をもたらしました。人的被害数、流出及び全半壊等の家屋被害数、その外ライフラインや産業基盤等の被害状況は凄まじい限りでした。3年を経過した現在も、多くの方々が応急仮設住宅に身を寄せて不自由な生活をされている状況ですが、その後、至るところで様々な復旧・復興事業が展開され、少しずつ復興の槌音も響いてきているのも確かなところではあります。

そのような中、昨年11月13日(水)に山元町中央公民館において「租税教育に関する研究発表会」が開催されました。税金の役割と必要性の理解や、租税への興味・関心を高めさせる指導の工夫などを研究主題として、1年ほどかけて児童生徒の意識調査等を基に実態を把握し、さらに税理士や税務署の方々の協力を得ながら租税教室を開催するなど、果敢にテーマに迫る授業が展開されてきたものです。

特に、今回の発表の中には、町の復興に関する取り組みをとおして、復興のために税金をどのように活用するかという視点で考えさせるなど、今後若い世代が復興へ取り組む上で、これからの地域を担う人材の育成を図ることなども意識化されており、内容的にも広がりや深まりのある実践報告がなされたところではあります。これらは、租税教育に関する関心と発表内容の質の高さは、3年前と少しも変わっていないことを実感として受け止めることができました。まさに仙台南地区の小・中学校の租税教育推進の底力を示していただいたものと思います。

本書には、4校の素晴らしい実践活動が掲載されておりますので、今後租税教育に関する指導資料として大いに活用していただければ幸いです。

結びに、今回の発刊に当たりましては、ご指導くださいました4校の先生方のご尽力を始め、仙台南税務署の皆様のご配慮とお力添え、そして多くの税務関係者の方々のご支援に心から感謝を申し上げ、挨拶といたします。

平成26年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	平成25年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	平成25年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫」	11
	～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～	
	名取市立 増田小学校 教諭 佐藤真一	
(2)	「税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫」	23
	～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～	
	岩沼市立 岩沼西小学校 教諭 管野千里	
(3)	「税金の大切さを考えることのできる児童の育成」	35
	～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～	
	亘理町立 高屋小学校 教諭 小松 晃	
(4)	「租税への興味・関心を深化させる指導の工夫」 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～	45
	山元町立 山下中学校 講師 太田侑吾	
(参考資料)	租税教育実践発表一覧表	55

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日～平成元年6月13日 岩沼市教育委員会	教育長	遠藤幸四郎
2代	平成元年6月13日～平成5年6月1日 名取市教育委員会	教育長	佐々木健
3代	平成5年6月1日～平成8年10月15日 山元町教育委員会	教育長	菅野丈治
4代	平成8年10月15日～平成13年6月8日 亶理町教育委員会	教育長	三品堯明
5代	平成13年6月8日～平成14年12月31日 岩沼市教育委員会	教育長	砂金勲
6代	平成15年1月1日～平成15年6月10日 岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
7代	平成15年6月10日～平成16年9月30日 名取市教育委員会	教育長	太田洋一
8代	平成16年10月1日～平成17年6月2日 名取市教育委員会	教育長	阿部哲男
9代	平成17年6月2日～平成19年3月31日 山元町教育委員会	教育長	佐々木陽一郎
10代	平成19年5月10日～平成19年6月1日 山元町教育委員会	教育長	横山俊二
11代	平成19年6月1日～平成21年6月1日 亶理町教育委員会	教育長	鈴木光範
12代	平成21年6月1日～平成23年6月24日 岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
13代	平成23年6月24日～平成25年6月20日 名取市教育委員会	教育長	丸山春夫
14代	平成25年6月20日～ 山元町教育委員会	教育長	森憲一

2 平成25年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 租税教育に関する座談会

(内容) 研究発表会に向け、児童・生徒の租税教育に直接携わっている教員同士の意見交換を分科会方式で実施した。

年 月 日	平成25年8月22日(木)
場 所	名取市役所
出 席 者	仙台南地区租税教育推進協議会役員 教育関係者・関係民間団体・税務関係官庁 平成22年度、平成25年度、平成26年度研究発表(予定)校

○ 租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	平成25年11月13日(水)
場 所	山元町中央公民館
発 表 者	名取市立 増田小学校 教諭 佐藤 真一 岩沼市立 岩沼西小学校 教諭 菅野 千里 亘理町立 高屋小学校 教諭 小松 晃 山元町立 山下中学校 講師 太田 侑吾

租税教育に関する座談会

開催日 平成25年8月22日(木)
開催場所 名取市役所



会長あいさつ: 山元町教育委員会
森 教育長



座長: 山元町教育委員会
菅野 学務課長



経験談発表: 名取市立 相互台小学校
大沼 史柄 教諭



経験談発表: 名取市立 みどり台中学校
山田 洋子 教諭



経験談発表: 亘理町立 荒浜小学校
渡辺 英明 教諭



経験談発表: 山元町立 山下第二小学校
針生 武宏 教諭



顧問あいさつ: 仙台南税務署
長田 署長



副会長あいさつ: 仙台南法人会
代理 相澤副会長



座談会 会場



第一分科会



第二分科会



第三分科会

租税教育に関する研究発表会

開催日 平成25年11月13日(水)

開催場所 山元町中央公民館



会長あいさつ: 山元町教育委員会
森 教育長



祝辞: 山元町
齋藤 町長



発表: 名取市立 増田小学校
佐藤 真一 教諭



発表: 岩沼市立 岩沼西小学校
管野 千里 教諭



発表: 亶理町立 高屋小学校
小松 晃 教諭



発表: 山元町立 山下中学校
太田 侑吾 講師



講評:山元町教育委員会
森 教育長



研究発表会 会場



研究発表会 会場



研究発表会 会場

平成25年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 平成25年11月13日(水)

開催場所 山元町中央公民館



名取市立 増田小学校

教諭 佐藤 真一

「税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫」
～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～



岩沼市立 岩沼西小学校

教諭 管野 千里

「税金の役割と必要性を理解できる児童を育成
するための指導の工夫」
～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する
政治」の学習を通して～



亘理町立 高屋小学校

教諭 小松 晃

「税金の大切さを考えることのできる児童の育成」
～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せ
に生きる町づくりを通して～



山元町立 山下中学校

講師 太田 侑吾

「租税への興味・関心を深化させる指導の工夫」
～山元町の復興に関する取り組みを通して～

平成25年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立増田小学校

教諭 佐藤 真一

1 研究主題

税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫

～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～

2 主題設定の理由

税金に関する学習内容について、社会科学習指導要領第6学年の2内容(2)アでは「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。」として、「政治の働きと税金の使われ方の関係について取り上げ、租税の役割を理解できるようにすること」と示されている。「租税の役割」については、「国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えられるようにする」とある。イでは「日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めること。」として国民の義務について、「納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある」と示されている。以上のことから、小学校6年生の段階で、税金に対して興味・関心をもち、国民生活の基盤である税金の大切さを理解できるよう指導をすることが必要であると考えます。

本学級の児童の実態を見てみると、日頃から消費税として自ら税金を支払う機会があり、税金という言葉を理解している。これまでの社会科の学習で、歴史的に人々が税を納めてきたという認識もある。さらには、消費税が5%から8%に上がる最近の話題も多くの児童が理解している。税金の意義についても、「みんなからお金を集めみんなの生活のために使われている」と大まかには理解ができている。

しかし、具体的には集められた税金がどんなことに使われているのか、なぜ必要なのかなどについては詳しく考えたことがなく、よく分からない児童が多い。ほとんどの児童は「税金を払うのはきまりだから」「払わなければいけないものだから」ととらえている。このような実態からも、税金の意義や役割を学習することは大切なことであると考えます。

そこで、将来を担う子どもたちに、税金の大切さやその意義を理解させるために、税金について児童が自ら課題をもち、調べる学習を展開することで、児童の税金に対する興味・関心を高め、さらに税金の意義や役割を積極的に理解することができるようになるのではないかと考え本主題を設定した。

3 研究目標

税金をテーマに自ら課題をもち、調べる活動を通して、税金について児童に興味・関心を高めさせる指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 児童に税金に関する意識調査を行い、実態を把握する。
- (2) 実態調査の結果をもとに話し合い活動を行い、税金についての関心を高めさせる。
- (3) 税金への関心をもとに課題を設定させる。
- (4) 課題を追求し、分かったことを新聞形式にまとめさせる。
- (5) まとめたことを発表させる。
- (6) 租税教室での「税金についての話」を受け、学習のまとめをさせる。
- (7) 事後調査を行い、税金に対する意識の変容を考察する。

5 研究の計画

9月	意識調査	実践授業	
10月	実践授業	租税教室	事後調査
11月	研究のまとめ	研究発表	

6 研究の概要

- (1) 税に関する事前の意識調査（回答者36名 複数回答あり）

○税金とは何だと思いますか。

「消費税」と考えている児童（17名）	「国に納めるお金」と考えている児童（16名）
具体的な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・買い物にプラスされるお金 ・人がものを買ったときに出すお金 ・ものを買ったときに足されるお金 ・商品の5%を国におさめるもの ・100円につき5円を払う。来年から8%になる 	具体的な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・お金 ・国に納めるお金 ・払わないと行けないお金 ・国が定めているお金 ・政治に納めるもの

「必要な物」と考えている児童（7名）	「取られるもの」と考えている児童（4名）
具体的な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・国をつくるのに必要なもの ・みんなために払うお金 ・社会保障制度を充実させるもの ・教科書を無料で支給している ・国を支えるお金 	具体的な意見 <ul style="list-style-type: none"> ・国の利益になる ・お金がなくなる

[考察]

税金＝「消費税」という考え方が一番多かった。「国に納めるお金」、「必要なお金」という意見がある一方で、「取られるお金」と考えている児童も少数いた。

○税金にはどんなイメージがありますか。

<ul style="list-style-type: none"> ・お金を集める制度 ・国が困っている ・払わなければならない ・消費税 ・良いような？悪いような？ ・国と関係がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・強制的にお金を払う ・高くなる ・何%か値段が上がる ・アベノミクス ・5%は多すぎる ・お金が出ている
---	--

[考察]

税金のイメージとしては、消費税として常に払っているためか「払わなければならない」と強制的に取られていると感じている意見が多かった。他にも「国のために払っている」など税金は国と関係していると感じている児童が多かった。

○税金は必要だと思いますか。

「必要」「まあまあ必要」「あまり必要ではない」「必要ではない」から選択

必要（18名）	まあまあ必要（10名）
<p>主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金がなくなったら、国や自分たちが大変 ・国が安定するために税金が必要 ・教科書も税金で、無償で支給されているから ・道路などの工事ができない 	<p>主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国には借金があるから、税金を集める必要がある ・お金がないと、国がやっていけないから ・借金が増えるから ・国がお金を必要としているから ・借金があるから少しは必要

必要ではない（8名）	あまり必要ではない（0名）
<p>主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に取られてしまいそう ・ゲームが買えない ・おこづかいが減る お金なくなる ・集めているだけで何に使うかわからない ・国民が払うお金だけが多くなってお金なくなる 	<p>主な理由</p>

[考察]

税金に対して良いイメージをもっていない児童でも、税金の必要性を考えたとき国のため、生活のために必要と感じている児童が多かった。

事前の意識調査の時の児童の様子

「来年の春108円になるぞ」「じゃ買っておかないと」「税金なくなったらどうなるのかな」「税金は取られるもの」「何に使われているんだ」など様々な意見が出てきた。社会の資料集を見ている児童もあり、税金に何かしら興味をもっているようであった。その日の家庭学習で自主的に調べてくる児童も数名いた。税金のおおまかなイメージはあり、その必要性も感じているが、何のために必要なのか、具体的にはあまり分かっていないと思われる。

(2) 学習計画 (8時間扱い) 社会科・国語科

段階	主な学習活動	時間	資料など
事前調査	・税金に関する、意識調査に取り組む。		
①税金について話し合おう	・税金クイズや意識調査の結果をもとにした話し合いを行い、税金に対しての興味関心をもつ。	1	・わたしたちのくらしと税金 ・パワーポイント資料
②税金をテーマに課題をもとう	・話し合いや税金に関する資料をもとに、自分の調べたい課題を設定する。	1	・パワーポイント資料 ・国税局ホームページ
③課題を調べよう	・自分の設定した課題について調べる。	2	
④調べたことを新聞にまとめよう	・調べたことを新聞形式にまとめる。	2	
⑤まとめたことを発表しよう	・まとめたことをもとに発表する。	1	
⑥租税教室	・租税教室でいままで学習してきた内容について確認をする。	1	
事後調査	・税金に関する、事後調査に取り組む。		

(3) 実践の概要

①税金について話し合おう

<内容>

○税金クイズに取り組む。

○意識調査の結果をもとに話し合いを行う。税金に関するイメージや知っていることを述べ合いながら、興味関心を高める。

- ・税金は何だと思うか？
- ・税金のイメージ
- ・税金は必要か？
- ・どんな税金を知っているか

<児童の様子>

導入として、「税金クイズ」と事前に児童に行った「意識調査をもとにしたプレゼンテーション」を行った。「意識調査のプレゼンテーション」は児童たち自身が答えた内容が提示されるものであったため興味をもって聞いていた。

プレゼンテーションの結果を提示している中で児童が一番驚いていた場面は、税金の必要性に順位をつけて紹介した時であった。税金に対するイメージは「強制的にお金を払う」「払わなければならない」など、どちらかといえばマイナスイメージの意見が多かった。そのため税金の必要性について「必要」「まあまあ必要」「あまり必要でない」「必要でない」の4択の中で「必要」は最下位になると児童たちは予想をした。ところが事前の意識調査の結果としては「必要」と答えた児童がクラスで1番多い結果になり、自分たちの予想と違っていたことに大変驚いていた。税金はあまり良いイメージがないものの、「必要なもの」

という考えが多い結果に、児童からは「税金を必要と考えている人が多いことが意外だった」「税金が必要という意見は自分と同じだった」など様々な意見が出された。

その後の話し合いの中で「税金が必要だと考えた人は、税金がないと工事が出来なくなるなど理由まで深く考えている」「税金への考えに差がある」など意見が出され、少しずつ興味関心が高まっていった。



②税金をテーマに課題をもとう

<内容>

前時に話し合ったことや税金の資料をもとに、自分の調べたい課題を設定する。

<児童の様子>

「税金にはいろいろな種類がある」「教科書には税金が使われている」「今度消費税が8%になる」など話し合いの中で出てきた話題をもとに、興味のあることや調べてみたい内容から課題を設定する児童が多かった。前時の学習後に自主的に調べ始めた児童はその内容を自分の課題としていた。一人一人の課題がある程度できあがったところで、全体に紹介したところ、他の課題に興味をもち変更する児童がいた。また、課題が見つからない児童には友達の課題が参考になっていた。

児童が設定した課題

税金にはどんな種類があるか
税金を使って作られている物にはどんなものがあるか
なぜ消費税を8%にしたのか
税金はどんなことに使われているか
外国の消費税について
税金はどんなことに役立っているのか
税金の歴史について
学校では税金がどのように使われているか
税金のいきつく先はどこか
税金はどのように集められているか
税金とは何か
名取市の税金について
もし税金がなかったら



③課題を調べよう

<内容>

自分が設定した課題について調べる。

<児童の様子>

宮城県租税教育推進協議会から頂いた「わたしたちの暮らしと税金」、国税局ホームページなどのインターネット資料、図書室の資料などを使い自分の課題について調べる活動に取り組んだ。税金の種類は調べてみると、地域限定のものなど細かいものまでいろいろとあることなどが分かり驚いていた。



④調べたことを新聞にまとめよう

<内容>

課題について調べた内容を「税金新聞」という形でまとめる。

<児童の様子>

1学期の総合的な学習の時間に、修学旅行で行った岩手の事について学んだことを新聞形式にまとめた。その経験があるため、集めた情報をもとにあまり迷うことなくまとめることができていた。



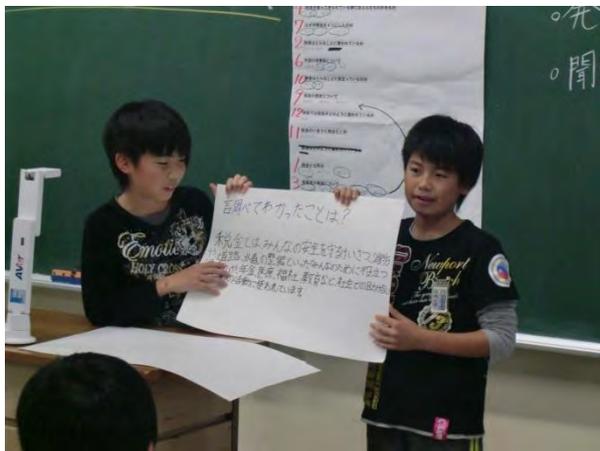
⑤まとめたことを発表しよう

<内容>

まとめたことをもとに発表をする。

<児童の様子>

それぞれの課題ごとに、調べたことを発表する活動を行った。新聞にまとめたことを使い発表したり、新たに画用紙で資料を作り発表したりした。友達の発表を聞きながら、自分が知らなかった税金の事について学習する機会となった。学習後には「税金はお金ではない形で昔からあった」「外国の消費税は日本より高いので、日本の消費税が高いとは言えないかもしれない」などいろいろな感想が聞かれた。



⑥税金教室

<内容>

税金教室でいままで学習してきた内容について確認をする。

<児童の様子>

税理士の木村さんに来ていただき、税金に関するクイズ、ビデオの視聴、税金の使われ方についての話し合いを行った。税金について、専門家の方から話をしてもらえるということで、児童は興味をもち税金について考えていた。「税金の種類」、「もし税金がなかったら」、「どんなことに税金が使われている」など授業の中に自分たちが調べた内容が話題に出てきていた。このことで児童の感想には「税金のことを調べていたので、知っていることもでてきていろんなことが分かった。」「ビデオは一度インターネットで見たことがあり復習のように見た。やっぱり税金がなくなったら大変だとあらためて思った。」などの意見があり、税金学習のまとめとしてとても有意義だった。その他の感想には、「税金を調べて税金のことは分かってはいたけれど、今回の税金教室でもっと分かりました。」「自分が調べたこと以外にも税金のことについて知ることができた。」など意見があり、税金のことについてさらに理解を深める機会にもなった。



(4) 税に関する事後の意識調査 (回答者34名 複数回答あり)

○税金は必要だと思いますか。

「必要」「まあまあ必要」「あまり必要ではない」「必要ではない」から選択

	事前調査 (36名回答)	事後調査 (34名回答)
「必要」	18名	33名
「まあまあ必要」	10名	1名
「あまり必要ではない」	0名	0名
「必要ではない」	8名	0名

○税金の学習をしてみたの感想（抜粋）

- ・「学習する前は、税金のことを全然知らなかったけれど、学習した後は、税金が何に使われているのかなどが分かりました。」
- ・「税金は市民からお金を取るだけだと思っていたけれど、かなり重要で必要だということが分かりました。」
- ・「税金は必要ないと思っていましたが、ないと大変なことになると思いました。それから、こんなに税金の種類があるとは思いませんでした。」
- ・「税は昔からいろいろな形で納められていることが分かりました。」
- ・「税金は悪いイメージがあるけれど、税金のことを詳しく調べて、国民のために役だっているんだと思いました。」

[考察]

事前調査でも税金はある程度必要と答えていた児童であったが、事後調査ではほぼ全員が必要と答えていた。これは、今回の学習を通してより具体的に税金の使われ方、税金がなくなったらどうなるかを学ぶことができたからであると考えられる。学習後の感想からは、やはり「税金の種類」「税金の歴史」など自分の調べた課題について、分かったことが多かったという感想があった。調べることで税金に対する知識を深めていったと考える。

7 研究のまとめと課題

<成果>

- ・導入で「意識調査のプレゼンテーション」を行った。自分や友達の考えが紹介されるとうことで大変興味をもって聞いていた。税金に対する関心が一気に高まり、これから学習しようとする意欲につながることができた。
- ・「税金の種類」「税金の必要性」「税金の歴史」など、自分で調べたテーマについては、より具体的に理解することができた。また、そのことにより税金に対する興味・関心も更に深まったと考えられる。
- ・調べたことは、新聞形式にまとめさせた。これまでの学習でも経験しているやり方のため、まとめ活動にも意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・税務署の方からの租税教室を授業のまとめとして行った。税金について自分で課題をもち調べた後での学習のため、内容の確認や新たな知識の習得ができ、まとめとしてとても有意義だった。

<課題>

- ・名取市の税金の使われ方など、より身近な話題に触れさせることができなかった。地域素材の活用などが必要であった。
- ・今回の学習を通して税金の種類や必要性などの認識には、大きな成長が見られた。自分たちの学校の様々な物品も税金でまかなわれていることを知ることができた。大切に使う、無駄にしないなど今回学習したことを今後の生活の中で生かしていくことが必要である。

平成25年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼西小学校

教諭 管野 千里

1. 研究主題

税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫
～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～

2. 主題設定の理由

私たちの生活は、教育、福祉、消防、警察などの公共サービスや、道路や橋の整備などの公共事業によって支えられている。私たちの生活に欠くことができないこれらの公共サービスや公共事業の費用のほとんどが税金で賄われている。また、近年、東日本大震災からの被災地復興のための復興増税や、消費税増税の話題が新聞やテレビなどのマスコミでも取り上げられることも多い。このような時期に、児童に、税に対する正しい理解と関心をもたせていくことは大切なことだと考える。

小学校学習指導要領社会科では、第6学年の目標（2）に「日常生活における政治の働きと我が国の政治の考えを理解できるようにすること」が挙げられており、内容（2）ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。」イ「日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていること。」とある。アについては、「政治の働きと税金の使われ方の関係について取り上げ租税の役割を理解できるようにすること」「租税の役割については、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。」、イについては、「国民の義務については、納税の義務を取り上げ、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。」とある。このことから、6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して、児童に税金の役割と必要性を理解させていきたいと考えた。

本校6学年2組の児童は、日常生活で「税金」という言葉は知っていても、それがどのような目的で、どのように集められているのかということについては理解していない。また、税金は「いやなもの」「高くて困るもの」というネガティブなイメージしか持っていない児童も多い。以上のことから、児童に、税についての正しい知識と、税金が私たちの生活に役立っているという実感をもたせることで、税についての興味・関心を高め、理解を深めていけると考え、本主題を設定した。

3. 研究目標

税金の役割と必要性を理解できる児童を育成する指導の在り方を探る。

4. 研究方法

- (1) 児童の税に対する意識の事前調査を行い、実態を把握する。
- (2) 公共施設の意義や役割について考えさせる。
- (3) 租税教室で税の意義や役割などを理解させる。
- (4) 「学校」における税の関わり方について調べて、税金の必要性を考えさせる。
- (5) 個人ごとに課題を設定し、「税金新聞」にまとめる。
- (6) 児童の変容を見るため、事後調査を行う。

5. 研究計画

平成24年度	9月	事前調査
	12月～1月	実践授業 租税教室
	2月	事後調査 研究のまとめ

6. 研究の概要

- (1) 児童の実態の事前調査（岩沼西小学校6年2組 男16名 女18名 計34名）

1. 税金という言葉を知ったことがありますか。	ある（33名） ない（1名）
2. 税金にはどんなものがありますか。	わからない（10名） 消費税（23名） 関税（4名） 所得税（1名） 土地にかかる税（1名） 高速道路料金（1名）
3. 税金はどんなことに使われていますか。 （複数回答可）	わからない（12名） 教科書（7名） 政治のこと（2名） 国のためになること（2名） 道路などを作る・直す（2名）

	学校などの建物（2名） 年金（1名） お年寄りの生活のため（1名） 被災地復興（1名） 環境（1名） 生活保護（1名） 電気代（1名） 総理大臣の給料（1名）
4. 税金はだれが払っていますか。 （複数回答可）	分からない（8名） お父さん・お母さん（9名） 自分たち国民みんな（12名） 大人（3名） 国（1名） 募金（1名）
5. 税金は必要だと思いますか。	必要だと思う（13名） <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害が起こった時に必要になると思う（1名） ・ 払うのは大変だけど、国のために必要（4名） ・ 暮らしが豊かになるから（3名） ・ お金がなくて困っている人のために必要（1名）
	必要だと思わない（7名） <ul style="list-style-type: none"> ・ 税金が上がったり、下がったりすると大変だから（1名） ・ 物の値段が上がって商品が売れなくなるから（1名） ・ 無駄に使われる（1名） ・ どんなことに使われているのか分からないから（1名） ・ 物の値段が上がるから（2名） ・ 税金が高くて暮らせない人たちが出るから（1名）
	わからない（14名）
6. 税金は生活に役立っていると思いますか。	思う（10名） 思わない（11名） わからない（13名）

【考察】

ほぼ全員の子どもが「税金」という言葉は聞いたことがあるものの、それがどんな目的で使われているのか、またどのような方法で集められているのかということに関して正しく知っている児童はほとんどいなかった。税金の種類に関しては、自分の生活経験から「消費税」の認識が高く、歴史の学習で出てきた「関税」を挙げた児童も

4名いた。税金の使い道についても、自分たちが使っている「教科書」を挙げた児童が7名と一番多く、次いで国のこと、政治のこと、学校などの建物、と続いた。このことから、児童たちにとって身近な事柄と、税金との関わりを取り上げることで、税金の学習に興味・関心を抱いていくであろうと考える。

また、ほとんどの項目に「わからない」と書いている児童も半数いるため、税金の種類や使い道について正しく理解することで、税金の必要性などについても、考えを深めていくことができると考える。

(2) 指導計画 (8時間扱い)

段階	主な学習活動	時間
事前調査		朝の活動
【第1次】 身近な税金について知ろう	公共施設を調べて、税の大切さに気づき、学習課題を設定する。	1
	租税教室で税について詳しく理解する。	1
	学校の中で、どんなことに税金が使われているか調べ、税金の必要性について考える。	1
【第2次】 税金について調べよう	税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて、課題を設定し、新聞にまとめる。	4
【第3次】 調べたことを伝えよう	調べたことを発表する。	1
事後調査		朝の活動

(3) 実践の概要

【第1次】公共施設を調べて、税の大切さに気づき、学習課題を設定する。(1時間)

〈ねらい〉

- ・私たちの生活をよりよいものにするために公共施設があり、そのために税金が使われていることを知る。
- ・税金についての関心を高める。

〈内容〉

- ① 教科書のまちの写真を見ながら、どんな施設があるか話し合う。
- ② まちでくらしている人々がもっている願いについて考える。
- ③ 人々の願いは、どのように実現されているのか話し合う。
- ④ 「税金」という言葉を知り、学習課題を設定する。

〈児童の様子〉

まちの施設については、自分たちが住んでいる地域の様子も思い浮かべながら、学校や警察署、市役所、駅、陸上競技場などが出された。それらの施設はどんな人たちが利用しているかを確認した後、まちでくらしている人々もっている願いについて話し合わせた。児童からは「大きな病院がほしい。」「遊具がたくさんある公園が欲しい。」「子どもから大人まで楽しめるような施設があったらいい。」「安全に生活を送りたい。」など、様々な意見が出された。

「人々の願いを実現させるためには、何が必要か」という問いには、一番に「お金が必要。」という意見が出た。そこで、教科書を見て、公共施設の建設や運営にかかるお金には、税金や国や県から受ける補助金、市が借りるお金（市債など）などあることを確認した。「税金」という言葉の意味を簡単におさえた後、次時で税理士さんをゲストティーチャーとして呼ぶことを児童に伝え、税金についてさらに詳しく調べていこうという学習課題を立てた。

【第1次】租税教室（1時間）

〈ねらい〉

- ・税についての興味・関心がもてるようにする。
- ・税金の必要性が理解できるようにする。

〈内容〉

- ⑤ ビデオ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」視聴
- ⑥ 消費税について
- ⑦ 税金の種類について
- ⑧ 税金の使われ方について

〈児童の様子〉

税理士事務所の柳谷さんに来ていただき、お話をしていただいた。ビデオは、税金がなくなると生活がとても不便になるという内容で、児童はとても興味深く見入っていた。その後、税金の種類や使われ方についての説明も、真剣に話を聞き、質問なども多く出ていた。前時に、公共施設について学習した後だったので、詳しい説明を聞いて、より理解が深まったようだ。

～児童の感想から～

- ・私は今まで、あまり税のことを気にしたことがありませんでしたが、今日、詳しく分かりやすく教えてくださったので、税金の大切さやどのように使われているのかが、よく分かりました。
- ・税金は悪いイメージがあつて、値段などが高くなったりして困ると思ってい

ましたが、ちゃんとみんなのために使われていて必要なものだと分かりました。

- ・税金の種類などについて、分かりやすくプリントをもらったり、プロの方のお話を聞いたりできて、いろいろなことが勉強になりました。
- ・税が身近なところでいろいろなことに使われていることが分かりました。説明も分かりやすかったです。
- ・税金で作られているものがたくさんあることが分かりました。税務署の方にお話を聞いて、いろいろなことを知ることができたので、もっと税金のことについて詳しく知りたいと思いました。これからも、税金のことを知って、いろいろな人に広めていくことが大切だと思いました。

【第1次】学校の中で、どんなことに税金が使われているか調べ、税金の必要性について考える。(1時間)

〈ねらい〉

- ・身近なところでの税についての興味・関心がもてるようにする。
- ・税金の必要性について理解を深める。

〈内容〉

- ① 学校の中のどんな物に税金が使われているか考える。(校舎、イス、机、など)
- ② 新しく建てられた集会室の建設には、どのくらいの費用がかかっているのかについて調べる。
- ③ 施設・設備以外に、どんなことに税金が使われているか調べる。(水道・光熱費)
- ④ 学習したことから考えたことや、もっと調べてみたいと思ったことを発表し合う。

〈児童の様子〉

学校内の施設・設備でどんな物に税金が使われているか考える活動では、校舎、机、イスなどの他にも、ボール、教科書、テレビ、ほうき、給食のワゴンなどたくさんの物が挙げた。

校舎の建設費用については、昨年度新しくできたばかりの集会室を取り上げた。一人一人予想を立てた後、教育委員会からの回答を確認した。予想よりも多くのお金がかかっていることや、建築工事費の他に、電気関係の費用や、備品などにもお金がかかることが分かった。また、集会室の建設に関する費用は、すべて市費から出されていることに気付いた児童もいた。

学校の光熱費については、事務室の平間先生に教えていただいた。電気・水

道・ガスの使用量を月ごとにグラフ化して、資料を提示してもらったため、児童も興味をもって調べていた。資料を見て気付いたことを話し合わせると、電気やガスの使用量が冬になると挙がっていることや、使用量が極端に下がっているのは夏休み期間中だということ、夏場はプールにかかる水道料などもあることなどが出されていた。また、児童一人一人が直接その額を負担することになったとすると、一人あたりいくらかかるかということも計算してみた。

以上のような活動の後、児童からは、「学校の建設費や光熱費には大きなお金がかかっているのだから、税金があつてよかったと思う。」という意見や、「学校の物や水道代などは、みんなの税金で払われているのだから、大切に使おうと思った。」などの意見が出された。

【第2次】税についてさらに詳しく調べたいと思ったことについて、課題を設定し、新聞にまとめる。(4時間)

〈ねらい〉

- ・さらに深く知りたいと思ったことについて調べ、まとめる活動を通して税についての理解を深める。

〈内容〉

- ① もっと詳しく知りたい・調べたいと思ったことについて課題を設定する。
- ② 国税庁のホームページの子供向けコーナーを見て、自分の課題について調べ学習を進める。
- ③ 図書室の本や、租税教室でもらった資料、インターネットなども使って調べ学習を進める。
- ④ 調べたことを新聞の形式にまとめる。

〈児童の様子〉

課題を設定する際に、それぞれ自分が考えた課題を発表し合ったり、教師が紹介したりして、「税金の種類、税金の使われ方、世界の税金、税金の歴史」など、様々な視点を提示した。そのため、一人一人の児童の興味関心に合ったテーマを選んで、調べ学習に入ることができた。

国税庁のホームページは、児童にも親しみやすく、税金に関するゲームなどを通して学べるコーナーもあったため、どの子も楽しみながら調べ学習を進めることができていた。また、関心が高い児童は、他のページも調べて、他の角度からも税金について知ろうとする姿が見られた。ただし、インターネットの中には児童にとっては難しい内容のものも多数あるため、ページの選択が難しかった。

その後、図書室の本や、租税教室でもらった資料なども使って調べ学習を進め、新聞の形式にまとめる作業に入った。家族や友達に「税金は必要だと思いますか。」

「どんなことに税金を使ってほしいと思いますか。」など、インタビューをして、記事に取り入れている児童もいた。これまでに国語や社会、総合などの時間に、新聞にまとめる活動は何度も経験してきているので、個人によって差はあるものの、見出しやレイアウトなどを工夫して、分かりやすくまとめることができた。

【第3次】調べたことを発表する。(1時間)

〈ねらい〉

- ・調べたことを発表して、情報を共有する。

〈内容〉

- ① グループ毎に調べてきたことを発表し合う。
- ② お互いに質問し合ったり、感想を交流する。

〈児童の様子〉

グループ内で発表し合った。「税金の種類」や「税金の使われ方」についてイラスト入りでまとめた児童も多く、お互いにどのようにまとめたのか興味をもって聞き合っていた。また、世界の国々の消費税と日本の消費税の違いに着目した児童の発表を聞いて、消費税率の違いに驚く姿も見られた。それぞれ、自分が調べていない内容について興味深く発表を聞いたり、質問をしたりする姿が見られ、情報の共有をすることができた。また、自分が調べてきたことが、新聞という一つの形で完成したことや、自分の課題が解決したことに成就感を味わうことができていた。完成した新聞は、教室背面の掲示板上に掲示し、学級全体でも情報を共有できるようにした。

(4) 児童の実態の事後調査 (岩沼西小学校6年2組 男16名 女18名 計34名)

1. 税金という言葉を知ったことがありますか。	ある (34名) ない (0名)
2. 税金にはどんなものがありますか。	消費税 (33名) たばこ税 (28名) 酒税 (14名) 所得税 (14名) 関税 (14名) 固定資産税 (8名) 自動車税 (重量税) (8名) 法人税 (3名) 相続税 (1名) 市民税 (1名)
3. 税金はどんなことに	公共施設 (25名)

使われていますか。 (複数回答可)	学校の建設や備品など (18名) 政治のこと (2名) 道路や橋の整備 (7名) 消防 (5名) 警察 (4名) 救急車 (1名) ごみ収集 (1名) 被災地復興 (6名)	
4. 税金はだれが払っていますか。 (複数回答可)	国民全員 (32名) お父さん・お母さん (2名)	
5. 税金は必要だと思いますか。	必要だと思う (31名) ・税金がないと、公共施設が建てられなくなり、生活が不便になるから (14名) ・国民が安全で豊かな生活を送るため (5名) ・道路や橋を作るのに必要だから (3名) ・税金がないと、すべてが民間になってしまい、困る人が出るから (3名)・教育にかかるお金が少なくて済むから (3名) ・消防や警察が必要な時に助かる (2名) ・お金がない人が、病気になった時など助けることができる (2名) ・震災復興に役立つから (2名)	※〔事前〕 必要だと思う (13名) 必要だと思わない (7名) わからない (14名)
6. 税金は生活に役立っていると思いますか。	〔事後〕 思う (33名) 思わない (0名) わからない (1名)	※〔事前〕 思う (10名) 思わない (11名) わからない (13名)

【考察】

事前調査では、「税金」という言葉を聞いたことはあるものの、その内容に対しては正しくない、あるいは漠然としたイメージしか持っていなかった児童がほとんどであるのに対して、学習後は、税金の種類や使われ方について、幅広い答えが出た。また、「税金を必要だと思う」理由についても、具体的に記述できており、公共施設や教育など、国民生活に欠かせないことに使われているという意識が高いということが分かる。中には、「税金が必要かどうかわからない」という理由として、「国民の生活の役に立っているとは思いますが、無駄に使われてしまうことがあるから」と答えた児童もいて、「税金のよりよい使い方」ということについても目を向けている児童がいることが分かった。

7. 研究の成果と今後の課題

【成果】

- 租税教室で、専門家の話を聞いたことが、児童の興味関心を引き出していた。また、ビデオの内容も、児童にとって分かりやすく、印象的であったため、児童の興味を喚起するのに効果的だった。
- 租税教室開催の時期を、社会科の「私たちの願いを実現する政治」の学習時期に合わせ、前時に公共施設について学習してから租税教室を行ったことにより、租税教室の内容について、児童の理解が深まった。また、歴史の学習は一通り終えている時期でもあり、租税の歴史などにも興味を示す児童が多かった。
- 学校の施設・設備や光熱費など、児童の生活に直接関わりがある事柄を取り上げたことで、実感をもって学習することができた。
- 一斉での学習→個人での課題解決学習という段階を踏んだことで、児童一人一人が税について関わり、理解を深めることができた。
- 新聞にまとめる活動では、個々の興味関心に合わせながら、取り組むことができた。また、「相手に伝える」という目的意識をもって、調べ学習やまとめる活動に取り組むことができていた。

【課題】

- 租税教室の税理士さんの他に、できれば市役所の方など公共施設の建設などの事業に直接かかわっている人の話を聞く機会を設けられれば、児童の学びがより深まったと感じた。
- 3学期の総合的な学習の時間の中で、「岩沼のこれからのまちづくりを考える」という活動を行った。その中で、市民の役に立つ施設の建設や商店街の町おこしなど様々な案を提示することができていたのだが、税について学んだことが必ずしも生かさ

れていたわけではなかった。社会の学習だけでなく、総合の学習やその他の教科の学習と関連させて指導計画を考えていくことで、より意識が高まっていくと考えられる。

- 事後のアンケートに「むだに使われてしまったら税金の意味がなくなってしまう」と書いた児童のように、「税金のよりよい使い方」というところまで目を向けて新聞に書いていた児童が少数いた。しかし、そのように深いところまで踏み込んで、自分の考えをもてていた児童は決して多くない。税金の種類や、使い方という知識だけでなく、税金のよりよい使い方や、税金について国民全体で考えるという姿勢を育んでいけるようにしていくことが大切だと思う。

平成25年度 租税教育に関する研究発表資料

平成25年11月13日
亘理町立高屋小学校

教諭 小松 晃

1 研究主題

『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』

～総合的な学習の時間「人権福祉」学習－だれもが幸せに生きる町づくりを通して～

2 主題設定の理由

本校の学校教育目標は『夢を持ち、希望を叶えるためにがんばる児童を育てる』である。

今日の日本を取り巻く状況は、長年の経済低迷や少子高齢化など様々な社会的問題を抱え、明日が見えにくくなっている。しかし、これからの日本を支え、明日をになう子どもたちには、将来を見通し、たくましく生きていく力が必要とされている。

また、学校教育目標をうけ、本校では、総合的な学習の時間で『人権福祉』をテーマに掲げ、3学年で車椅子体験や白杖体験（体・目の不自由な人についての理解）、4学年で手話体験（耳の不自由な人についての理解）、5年生でデイサービス訪問（お年寄りとの交流・施設の理解）と居住校交流、6学年で支援学校訪問、そして全校で聴覚支援学校との交流学習などを行っている。その際、以下の3点を目標に取り組んでいる。

- 自ら課題を見つけ、主体的・創造的に探究活動に取り組み、よりよく問題を解決していく資質や能力を育てる。
- 学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む中で自己の生き方を考えることができるようにする。
- 様々な人とのかかわりの中で、自分の生き方を見つめ、学んだことを自分の生活に生かそうとする態度を育てる。

租税教育に取り組むに当たり、総合的な学習の時間の系統性と特に目標の第3項目にある「人とかわる中で」「自分の生活を見つめ」「生活に生かそうとする」態度の育成に重点を置き、租税教育に取り組んでいく。このことにより、これからの社会を創造していく人間を培う機会になるのではないかと考える。

実際の学習では、多種多様な税種の中でも、消費税に着目していくこととした。その理由として、児童も負担しており、身近な税としてとらえやすいこと、国や地方の歳出の3分の1は「わたしたちの健康や生活を守るための社会保障関係費」であり、消費税はその財源となっていることからである。

また、社会的な必要性が高く、福祉の観点からも理解しやすく、取り組む方向性が絞れるからである。

そこで、総合的な学習の学年系統性や内容と関連付けながら、自らが考え取り組んでいこうとする意識を高めていくことともに、主体的に税を生かそうとする学習機会の設定が大切になると考えこの主題を設定した。

3 研究目標

○税金の役割を理解し、その大切さを知り、これからの社会づくりに生かそうとする意識と態度を育てる。

4 研究仮説

次のような指導や支援を行えば、児童は税金の役割とその大切さを理解するであろう。

○税金がどのように生かされているのかを具体的に知るためにビデオ資料やインターネット資料を活用する。

○調べたことやインタビューしたことを基に、発表し合う場を設け、税に対する情報を交流・交換し合い理解を深める。

○児童が主体的に税金を生活に生かしていこうという意識が高まるよう「人権福祉」学習の経験や日常的な経験を基にした「だれもが幸せに生きる町づくり」に取り組む。

5 研究の方法

- (1) 児童の税金に対する事前の意識・知識調査をする。
- (2) 租税教室を行い、税金に対する興味・関心を高めるとともに理解を図る。
- (3) 租税教室を基に税金について調べたいこと（課題）を設定する。
- (4) 税金が町づくりにどのように生かされているのか調べることを通じ、身近な税の使われ方について考える。※インターネットや資料を使って、課題を追究する。
- (5) 「だれもが幸せに生きる町づくり」と題し、わたしのアイデア施設・設備づくりに取り組み、発表会を行う。
- (6) 児童の税金に対する変容をつかむために事後調査を行う。

6 研究計画

6月	事前調査（質問紙） 租税教室（5年生 11名） 中間調査（感想文・課題設定）
9月～10月	授業実践 事後調査 研究のまとめ
11月	研究発表

7 研究の概要

(1) 事前調査の結果（6月25日実施）

項目1-1 税金とは何か知っていますか。

○知っている…11名 ○知らない…0名

項目1-2 税金についてどんなことを知っていますか。（複数個回答した児童有り）

- ・信号機や公園，道路など税金でつくられる（4名）
- ・国に払うお金（4名）

- ・消費税は100円買ったなら5円かかる（3名）
- ・消費税とか大人が払うお金（1名）
- ・地震の復興などにも使われている（1名）
- ・消費税以外にも種類がある（1名）
- ・無回答（2名）

項目2-1 税金は必要だと思いますか。理由も書きましょう。

- 必要…9名 どちらかといえば必要…2名

〔理由〕

- ・道路など作ったり直したりできなくなるから（4名）
- ・生活に困るから（3名）
- ・みんなの生活が大変になるから（1名）
- ・信号機や道路など税金で管理していないと大変だから（1名）

- どちらかといえば必要…2名

〔理由〕

- ・消費税が無かったら、物が少し安く買えるけれど、税金がなかったら公園など無くなってしまうから（1名）
- ・何となく（1名）

- どちらかといえば必要ない…0名

- 必要ない…0名

項目3 税金はどんなことに使われているか知っていますか。（複数個回答した児童有り）

- 知っている…5名 知らない…6名

- ・税金でごみが集められている（4名）
- ・税金で道路や信号機、橋、公園などが作られ、管理されている（4名）
- ・教科書代は税金で払っているからお家で払わなくていい（3名）
- ・学校を建てたり、学校に必要な物を買ったりしている（2名）

項目4 税金についてどんなことを学習・調べたいと思いますか。

〔回答〕

- ・町では税金を使ってどんな施設を作っているのかについて（4名）
- ・国の税金はどのくらいあるのかについて（4名）
- ・税金の種類について（2名）
- ・税金がないと生活はどうか（1名）
- ・消費税はなぜ増えるのかについて（1名）

【考察】

税金について11名全員が知っていたが、具体的な用途について記述した児童に尋ねたところ「でこぼこな道を走っているとき、お父さんが税金で直してほしいと言っていた」「公園の土が津波で臭くなっていたとき、お家の人と言っていた」など日常的な会話の中で聞いたことがある程度であった。ごみの回収については4名が回答したが、4年生の時に学習した経験や「ごみの

回収が遅れたときお家の人が言っていた」など、税金の意義について理解している児童はいなかった。

また、どちらかといえば必要と答えた児童が2名いた。「安く買いたい」という意見は、だれもが考え得る回答であり、このアンケートの集約結果・回答内容を知らせたところ、「確かにそう思うときがあるよね。特に高い物を買ったとき。」など同じように感じる発言をする児童が多かった。

以上のような児童の実態を踏まえ、学習を通して具体的に税金がどのように使われ、わたしたちの生活を支えているのかその有用性を知り、税金の必要性を理解できるよう学習を進めていきたい。

(2) 学習計画 『総合的な学習の時間』(10時間扱い)

段 階	主な学習内容	時間	資料など
①事前調査	○アンケートを実施し児童の実態を把握する。	1/2	
②租税教室 税金について知ろう	○税金について理解を深め、興味・関心を高める。	1	DVD視聴 1億円のレプリカ
③中間調査	○租税教室をふり返って、税金の役割や目的について知ったことを感想文にまとめる。	1 1/2	
④税金について 知ろう・調べよう	○租税教室からもっと調べたいことを課題にして追究活動をする。	2	国税庁ホームページ 県・町ホームページ インタビュー資料
⑤税金について 考えよう・ まとめよう	○これまでの学習を振り返り、課題についてまとめる。	2 1/2	
	○「だれもが幸せに生きる町づくり」と称して施設・設備を考え発表する。	2	
	○事後調査を行い、児童の税についての変容を把握する。	1/2	

①【事前調査】…1/2時間

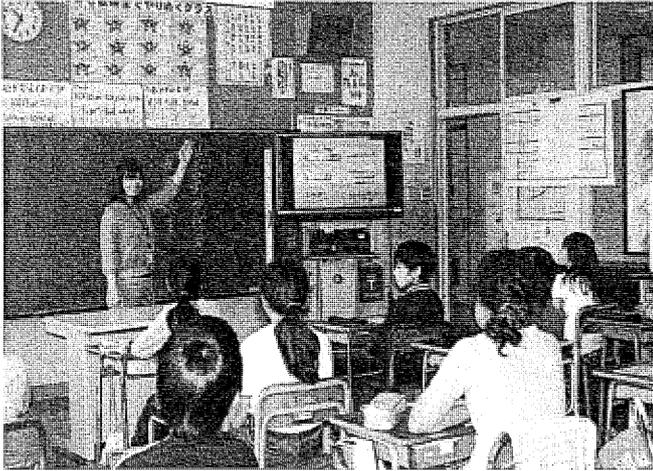
租税教室を実施するに当たり、質問紙による事前調査を行った。

また、集計結果や回答結果を知らせ、租税教室に向けて意識付けを図った。

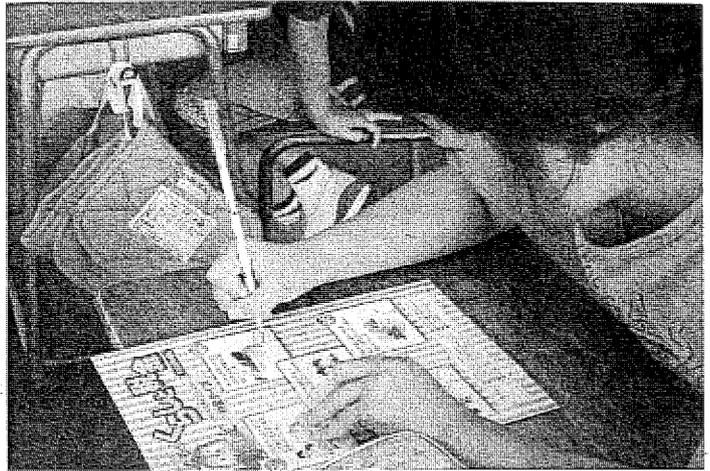
②【租税教室：税金について知ろう】…1時間

6月28日に税理士の方による講話やDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の視聴を行い、基礎的な税金の役割について学んだ。また、児童も「消費税」を払い、それが様々な公共のサービスを支えたり、公共の施設が建てられたりしていることを具体的に教えてもらい、税金の必要性を啓発する機会となった。また、1億円の重さを体験したりすることにより、お金に対する関心を高める機会にもなった。

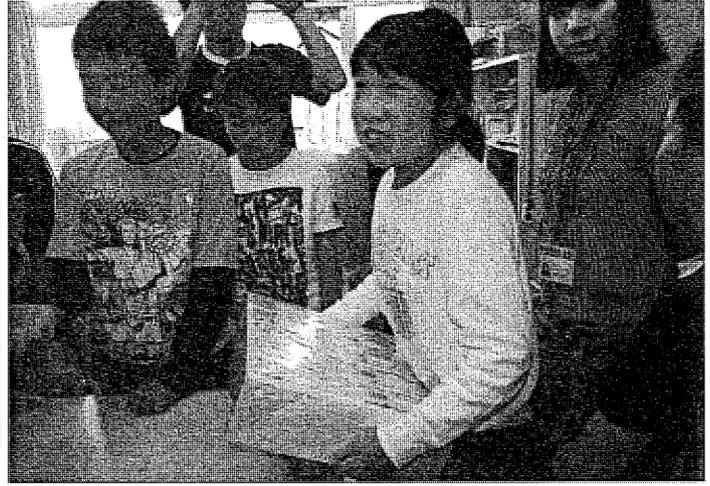
〈租税教室の様子〉



DVDの視聴 税理士の方の説明



リーフレットを使った学習



1億円を実感

③【中間調査】…1 1 / 2時間

租税教室で学んだことや税金についての感想などを作文にしてまとめ、発表会を開いた。事前調査ではっきりしなかったことが明確になり、意識の変容が見られた。また、税金についての全体のテーマを『だれもが幸せに生きる町づくり』とし、児童一人一人が租税教室で学んだことを基に課題を設定し追究活動を進めていくことを確認した。

〈教室後の児童の感想文〉

昨日租税教室で初めに税金の
 ことについて税金の仕組みを聞いて
 いて税金が会社に課税の税金
 などが減って大変だと思いましたが、税金
 税金がしるのよと人知れず思いました。税金
 税金のおかげで楽々公園の管理が出来
 ていると感じたので税金がありがたいと
 思いました。

税金は国民のみなさんがおさめていて
 上乗せの税金をしっかりとしるお
 金だから私は税金は大切に本
 ギに必要とさしか、使.てはいい
 ないと思います。これから税金に
 ついてどのくらいいろいろな税金が
 あるのかについてを調べたいです
 感想 私は最初税金はない方
 がいいと思.ていました。ただ
 税金がないといへんたこと
 言うことがわかりました。

私は今日の租税教室で税金の
 仕組みを知ることが出来たので
 税金が大切だと思いました。税金
 がなければ公園の管理が出来
 ないと思います。税金がありが
 たいです。税金がなければ公園
 の管理が出来ないと思います。
 税金がなければ公園の管理が出来
 ないと思います。税金がありが
 たいです。税金がなければ公園
 の管理が出来ないと思います。

④【税金について知ろう・調べよう】…2 1/2時間

国税庁のホームページの租税教育教材や租税教室でいただいた「わたしたちの暮らしと税金」のリーフレットをもとに、「税金の種類」や使われ方について調べ、追究活動を行った。また、インターネットを使って宮城県と亶理町の税の歳出入額や内訳など調べ、税金が自分たちの身近で様々な事業や活動に使われていることを知ることができた。

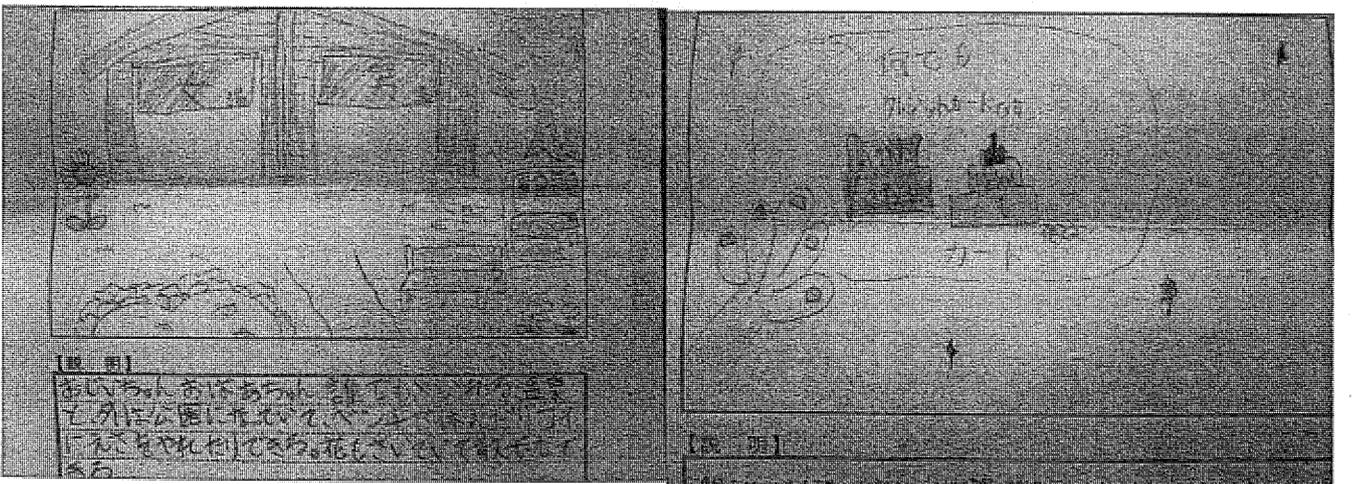
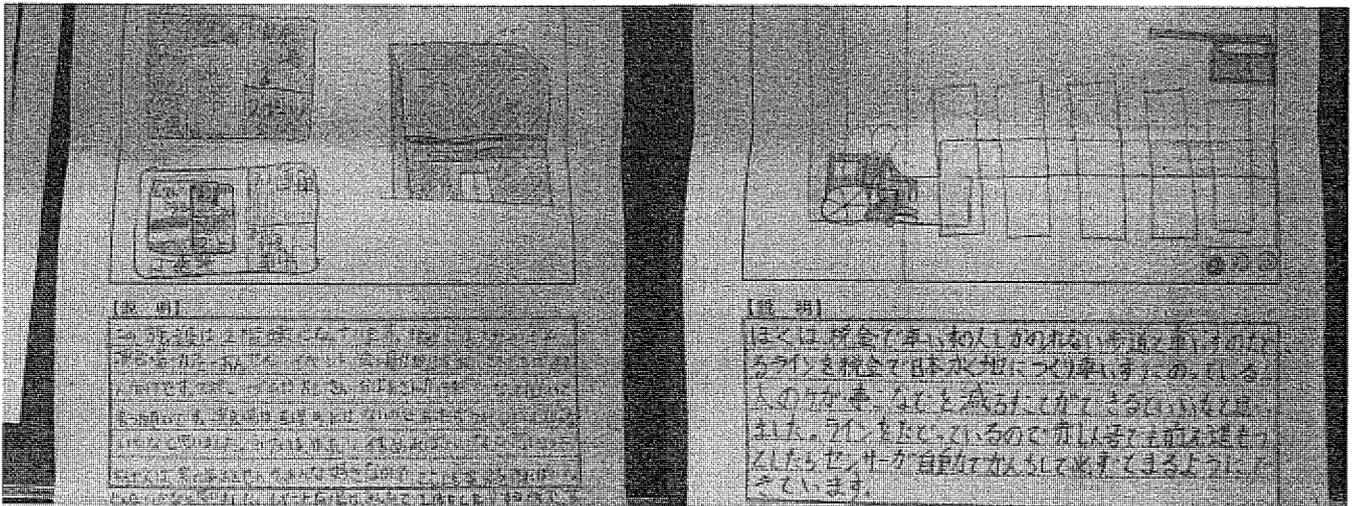
保護者に、「図書館」で働いている方や「デイサービス」を経営している方がいらっしゃるの、「だれもが幸せに生きる町づくり」につながる施設や設備などを質問し、回答していただいた。身近にいろいろなハンデをもった方にも利用しやすい施設・設備づくりが図られていることを知ることができた。

⑤【税金について考えよう・まとめよう】…5時間

税金を生かして「だれもが幸せに暮らせる町づくり」発表会を行う。事前に「いろいろな不自由をもつ人にとって」「お年寄りにとって」「だれにとっても」という視点を設定し、「親子で考えよう未来の町づくり」として家庭にも協力を呼びかけ取り組んだ。

また、税金について学んで、自由に振り返り作文を書き、発表会を行った。追究活動で得た知識や、町づくりに主体的に取り組んだ経験が、具体的にとらえている記述からうかがえた。

〈児童が発表したアイデア施設・設備〉



項目 1-1 税金とは何か知っていますか。

○知っている… 11名 ○知らない… 0名

項目 1-2 税金についてどんなことを知っていますか。(複数個回答した児童有り)

- ・町づくりに生かされるお金 (6名)
- ・みんなの暮らしを幸せにするために払うお金 (3名)
- ・消費税はみんなが払っている (3名)
- ・信号機や公園, 道路など税金でつくられる (3名)
- ・国に払うお金 (3名)
- ・消費税以外にも種類がある (3名)

項目 2-1 税金は必要だと思いますか。理由も書きましょう。(複数個回答した児童有り)

○必要… 11名

[理由]

- ・道路や信号, 町のいろいろな施設を作ったり直したりできなくなるから (4名)
- ・税金がないとみんなのために役立つことができないから (2名)
- ・住みよい生活につながるから (2名)
- ・火事が起こっても消火できないから (1名)
- ・町が汚れたり, 不便なことが増えるから (1名)
- ・みんなが必要なことを税金を払うことで受けることができるから (1名)
- ・教科書や学校などお金がかかる必要な物を国や町が負担してくれるから (1名)

○どちらかといえば必要… 0名

○どちらかといえば必要ない… 0名

○必要ない… 0名

項目 3 税金はどんなことに使われているか知っていますか。(複数個回答した児童有り)

○知っている… 11名 ○知らない… 0名

- ・町の図書館や公民館, その他の施設や設備をつくる (4名)
- ・みんなの生活を守るために使われている (4名)
- ・税金でゴミが集められ処理されている (4名)
- ・税金で道路や信号機, 橋, 公園などが作られ, 管理されている (4名)
- ・教科書代は税金で払っているからお家で払わなくていい (3名)
- ・学校を建てたり, 学校に必要な物を買ったりしている (2名)
- ・病院やデイサービスにも使われている (2名)
- ・ダムが造られている (1名)
- ・消防署, 警察署などを建てたり, そういったところで働く人の給料になる

(1名)

項目4 税金の学習は必要だと思いますか。(複数個回答した児童有り)

- 必要…11名 ○どちらかといえば必要…0名
○どちらかといえば必要…0名 ○必要ない…0名

〔回答〕

- ・なぜ税金を払うのか学んだ方がいいから (3名)
- ・自分たちが払っている税金がどんなことに使われているのか知ることができるから (3名)
- ・幸せな町をつくろうと考えたのが楽しかったから (3名)
- ・税金でつくられている町の施設や設備を知ることができるから (3名)
- ・自分たちも大人になったら払うので、知っていた方がいいと思うから (2名)
- ・学校の校舎や体育館、教室の机や椅子など大切に使おうと思うから (1名)
- ・税金の仕組みが分かるから (1名)

【考 察】

税金の有用性について具体的にとらえている児童が増えたことが分かる。そのため、税金がわたしたちの生活にとって必要であるという意識も高まったことがうかがえる。

8 研究の成果と課題

【成 果】

- 租税教室はとても有意義で、税金に対する興味・関心が高まっただけでなく、税金は児童にとって身近なもの、必要なものとして考えられるようになった。
- インターネットを活用したりや視聴覚教材を取り入れたことで、税金について児童が意欲的に課題を追究する姿が多く見られた。
- 家庭にも協力をいただいて「だれもが幸せに暮らせる町づくり」や「インタビュー」に意欲的に取り組み、児童が主体となって町づくりを考え、税金を有効に使おうという意識を高める機会となった。また、税金を納める立場だけでなく、生かす立場にもなって取り組んだことで税に対する有用性・必要性を認識することができた。

【課 題】

- 租税に関しては、第6学年社会科の学習内容である。第5学年の社会科では扱っていない。今回は、総合的な学習「人権福祉」とのかかわりの深い「消費税」を中心に進めていったが、児童個人で租税の何をどこまで追究させたらよいのか判断に困った。

平成 25 年度 租税教育に関する研究発表要項

山元町立山下中学校

講師 太田 侑吾

1 研究主題

租税への興味・関心を深化させる指導の工夫
～山元町の復興に関する取り組みを通して～

2 主題設定の理由

2011年3月11日の東日本大震災で、山元町も甚大な被害を受けた。町の約半分が浸水し、多くの家屋が流され、たくさんの町民がしばらくの間、明日の生活もままならない状態が続いた。そんな大震災から2年半ばかりが経ち、比較的町の様子や町民の方々の生活も落ち着いてきたように感じる。しかし、未だ舗装されない道路、震災で外灯が破損した暗い通学路、仮設住宅での生活、万全でない交通面などから町外に移転することを余儀なくされた家庭など、震災の爪痕は大きく、被災した本校の生徒の生活への影響も甚大である。

自分たちの育った山元町が傷ついていく光景を目の当たりにした子どもたちは、山元町がこれから復興へと向かうための大切な原動力でもある。

そこで、本研究では山元町が震災以降抱える、町の人口の流出等の課題を提示し、町の復興の為には「税金をどのように使えば良いのか」という事を考えさせることを通じて、税に興味・関心を持たせるとともに自分たちの育った場所を愛する心や、自分たちが復興へ取り組む上でも大切な人材となっていく、という意識を高めさせる有効な方法として、この主題を設定した。

3 研究目標

身近な資料の活用等を通して、税金への関心を高める指導法を探る。

4 研究仮説

- ・町の予算案など身近な資料を使って指導を進めていけば、税金に対する興味・関心が高まると同時に、町の実態や課題について考えることが出来るであろう。
- ・自分の住んでいる町について、じっくり考える活動を取り入れることによって、これからの町づくりについて自分の意見を持つことが出来るであろう。

5 研究の方法

- (1) 山元町の税の用途に対する事前調査を行い、実態を把握する。
- (2) 広報誌「やまもと」に記載されている平成25年度の山元町予算案を調べ、震災後の山元町の課題を含めた実態について理解させる。
- (3) 町の実態や抱える課題を踏まえて、それらの解決・改善のために限られた予算を自分ならどのように使っていくのか考え、まとめさせる。
- (4) 生徒の変容の実態を把握するために事後調査を実施する。

6 研究の計画

- 7月 5日 (金) 租税教室実施 (本校3学年 95名)
8月22日 (木) 租税教室座談会 (於:名取市役所)
10月第3週 事前調査・実践授業
実践授業1「山元町の実態・課題を知ろう」
実践授業2「山元町のお金の使い道を考えよう」
実践授業3 まとめ
10月第5週 事後調査

7 研究の概要

(1) 山元町の実態についての意識調査(本校3学年 90人回答)

- 1 震災以降、山元町の人口はどのくらい減ったと思いますか？

大きく減った…36人 それなりに減った…46人
あまり減っていない…0人 ほとんど変わっていない…1人

- 2 震災前に比べて、山元町に町民が納めている税金はどう変わったと思いますか？

大きく減った…22人 減った…35人
あまり変わらない…6人 ほぼ変わらない…20人

- 3 2の質問について、なぜそう思ったのか理由を書いてください

大きく減った・減った

- ・町の人口が減ったから (大多数の回答)
- ・町の多くの人が被災し、お金がなくなったから
- ・不景気だから
- ・わからない

あまり変わらない・ほぼ変わらない

- ・人が納めなければならない税金は変わらないから (大多数の回答)
- ・被災地だからといって、税金を減らすのは平等ではないから。
- ・税金を減らすと復興が遅れるから
- ・山元町の税金の実態をよく知らないから
- ・わからない

4 今の山元町は、税金（予算）をどのように使った方が良いと思いますか。（1人3つまで回答可）

- ・災害公営住宅や集団移転…53人
- ・瓦礫処理や除染作業…57人
- ・被災した児童・生徒への支援…38人
- ・農業・漁業の整備…34人
- ・体育館や図書館などの建設…16人
- ・大型ショッピングモールなどお店の建設…10人

事前調査の考察

質問1について、山元町の人口が減っている（震災前に比べて約20%減）という認識はほぼ全ての生徒が持っていた。これは被災している生徒が多いことや、本校から震災の関係で転出した生徒がいたり、卒業後引っ越すことが決定している家庭があったりといったことから、このような結果に結びついたと考えられる。

質問2については、多くの生徒が人口の減少と町の税収の減少を関連づけて考えることが出来ていたが、生徒の約25%が、「人口の減少と税収は関係ない」という認識であった。質問3で挙げられた理由としては、復興で多くのお金がかかるので、人口が減ろうが税金は集めなければならないというものも多くあった。今後の実践授業で町の課題について考えていく上で、人口の減少と税収を関連づけていけるよう、工夫して指導したい。

質問4の結果では、生徒が復興を進めるということについてどのような考えを持っているか知ることが出来た。「農業・漁業の整備」も多くの生徒が重要視していた。これは町の特産物（いちご、りんご、ほっき等）を町外に売り出していく面と、家が農家の生徒にとっては生活に大きく影響する面などが、挙げられた理由として考えられる。

一方で、一部の生徒は大型ショッピングモールや体育館など、生活の利便性を優先する考えの生徒も見られたので、実践授業後の変容に注目したい。

この事前調査の結果から、多くの生徒たちは税に対する関心は高く、山元町の税収の実態や復興についてもおおよそ自分の考えを持っていると言える。今後の実践授業では生徒が今持っている考えや意見を尊重しながら、予算のあらましなど具体的な資料を読み取らせ、更に考えを深めてさせていきたい。

(2)実践授業1「山元町の実態・課題を知ろう」

・平成25年度の山元町の予算はいくらだと思うか

↳（生徒の反応）・2500万円、3億円、10億円…etc

↳（説明）実際は約560億円

↳（生徒の反応）・復興ってそんなにお金かかるの？

・このような予算を今年度は使う予定だが、どんなことに多く使っているのだろうか？

↳（生徒の反応）・除染作業、道路の修復、高速道路の建設、田園（町内の飲食店）の建設

↓

（説明）1番多いのは災害公営住宅や津波復興拠点の整備などの土木費に約220億、次に災害廃棄物（がれき）処理などの衛生費に約190億円

↳ ・「あの夜でも明るい建物か！」（沿岸部にある瓦礫処理のための施設のこと）

・がれき処理にはお金がかかるとは思っていたけど、ここまでとは思わなかった。

・山元町の予算を1万円に置き換えると、次のような分け方になる。これを見て感じた事を書こう。

土木費	4386 円	災害復旧費	79 円
衛生費	3496 円	消防費	51 円
総務費	803 円	商工費	110 円
農林水産費	599 円	議会費	19 円
民生費	255 円	教育費	91 円
公債費	111 円		

（生徒の反応）・衛生費の災害廃棄物処理事業は、毎年ペースを決めて使うことで、他にお金を回した方が良くと思う。

・農林水産費にもっと使っても良いと思う

・土木費はこれでも足りない。公営住宅の建設をもっと優先してほしい



「あなたなら、この予算をどう分けますか？」（次回作業）

（説明）平成 25 年度の山元町予算は 560 億円。それに対して、地方交付税など税金でまかなえるのは 20%にも満たない。町税の割合は 8 億 8000 万しかない（約 1, 5%）

↳ （生徒の反応）・山元町に住む人や、訪れる人が増えればお金もたくさん？

・予算は 10 倍以上になったのに税収は減ってる！

・これじゃ町に必要なものが作れない？ etc

・では、震災以降の山元町の課題とは何だろうか？

（生徒の反応）・税収が少なくなった。人口が減ったから。

・人がいないと復興に関わる人も減るし、お金もない。

・併設されてる小学校もあるし、住宅の問題などの他にも、教育の面であったり、考えればキリがない。 etc



山元町の課題を解決するために、あなたなら限られた税収(予算)をどう使うか？

(3)実践授業2「山元町のお金の使い道を考えよう」

・山元町の予算を1万円に置き換えたとして、あなたならどのように分けますか？

土木費		災害復旧費	
衛生費		消防費	
総務費		商工費	
農林水産費		議会費	
民生費		教育費	
公債費			

(生徒の反応)・復興を優先させるために土木費と災害復旧費にもっと振り分けて、落ち着いたら他のことにお金をまわしたほうが良いと思う。

- ・交通面を整えるため(駅など)に土木費を多くし、町に訪れる人を増やしたい
- ・新しく道の駅やサービスエリアを作るために土木費を多くし、そこで特産物売るために農林水産費を高くした。
- ・教育費を充実させれば、人口増加に繋がると思う
- ・町を発展させることで人口減少を抑えられると思う。だから商工費や農林水産費に充ててみた。 etc

・これらの項目や使い道の他に、何に税金を使っていった方が良いと思いますか？

(生徒の反応)・特産物を整備するのもいいけど、町独自の新しい魅力を作るもの良いと思う

- ・何に使うのかというのも大切だけど、無駄なものに使わないことも大切だと思う
- ・ゴミが少なく、夜も静かな山元町の環境の良さをなくさないように、環境の整備に使ってほしい
- ・自分の親が「スーパーが無くて大変」と言っていたので、そういう施設も必要だと思う。
- ・駅の復旧
- ・何かのイベントを開く
- ・国道6号線沿いに建物をたくさん建てて、仕事も増やす
- ・道の駅
- ・若い世代のために、商業施設を優先させるのもありだと思う。
- ・震災の資料を展示する

(4)実践授業3「まとめ」

・莫大な予算が必要な上、税収でまかなえる部分が少ないという今の山元町の状況を今回学び、どのようなことを感じましたか



(生徒の反応)・将来この町の役場職員になりたいと思っていたが、町の問題は想像以上に大きかった。より多くの税収を得るためにも、まず商業施設が出来てもいいのかなと思う。

- ・大人になっても山元町にいた方が良いと感じた。
- ・人口が減ることが1番の問題だと思うので、まず素敵な町にして多くの人を呼び込むことが大事だと思う。
- ・使い道も大事だが、コストの削減を！
- ・がれき処理や除染作業は私たちには出来ないが、山元町の良いところをたくさん知っているので、それを広めていきたいと思う。

「未来の山元町を考えよう」の授業を受けての感想を書いてください

(後述で抜粋)

(5)事後意識調査「授業後を振り返って」

1 「未来の山元町を考えよう」の授業の前と後では、税に対するイメージは変わりましたか？

変わった…24

少し変わった…41

変わらない…15

2 1で変わった・少し変わった人は、どのように変わりましたか？

- ・税の大切さ…31
- ・山元町と税の関係性…27
- ・税の今後を考えなければならないこと…9
- etc

3 1で変わらなかった人は、税に対してどのようなイメージを持っていますか？

- ・なくてはならないもの…6
- ・国が使うもの…2
- ・国民の義務…2
- ・生活を豊かにするもの…1
- ・無回答…4

4 今の山元町は、税金(予算)をどのように使った方が良いと思いますか。(1人3つまで回答可)

- ・ 災害公営住宅や集団移転…53→63
- ・ 瓦礫処理や除染作業…57→59
- ・ 被災した児童・生徒への支援…38→17
- ・ 農業・漁業の整備…34→52
- ・ 体育館や図書館などの建設…16→3
- ・ 大型ショッピングモールなどお店の建設…10→13
- ・ その他…7 (駅5、土地の安全確認2)

5 「未来の山元町を考えよう」の授業で1番印象に残っている事は何ですか？

- ・ 山元町の予算の使い道…27
- ・ 町税の少なさ…25
- ・ 山元町の予算を一万円に置き換えて考えること…16
- ・ 山元町の現状…6
- ・ 人口の減少…3
- ・ 復興のこと…1
- ・ 税金によって助けられること…1
- ・ 借金があること…1

「未来の山元町を考えよう」の授業を受けての感想(抜粋)

この授業をして、山元町のお金の現状や復興の難しさ、税金の大切など、色々なことを学びました。

私はこれまで、山元町が「お金を借来はばならないお金はほとんどが山元町民の税金でまかなわれていて、1.1%の20%という数値にあどろきました。

山元町が「着実に復興に向かっていっているのは山元町長さんや、たくさんの方の努力があることだ」と実感しました。私もこれから山元町の復興にこうけんしたいです。

今までは復興が進まないことについて不安や不満しか
感じることばかりでしたが、町民たちの税金だけでは
どうにもならない。現在の山元町の現状を
知るところは、むしろ役場の皆さんに頑張ってもらいたい、
という思いもでてきました。

私たち自身も、復興や町づくりに向けて
できることをやってみよう。

山元町長や役場を働いている人は大変な仕事だと思った。
税金の使い道について、どんな風に分配してか、金銭が納税するということ
はないと思った。被災した人は民生費や、復興にお金をかけたいと思うが、
被害をうけていない人は、町の発展のためにお金をかけたいと思っている
だろうし、そんなバラバラな思いをまとめるというのはすごいと思った。

今は、中学生だから、町には何もできないけど、
地域交流や、おじいちゃん、おばあちゃんを元気づけるなど、
町に住んでいる人のためには何かできると思う。ゴミ拾いで、環境をよこしたり、
自分にできることを探して、それを大切にしたい。

将来の山元町を考えると責任を感じた公民の瞬間でした。

山元町復興！ といっているものの、実際はかなり難しい
状況にあるのだとわかりました。

復興のためには、それなりのお金が必要になるのに、
税金は人も少ないし、全然集まらないから大変だと思いました。

これから復興するのに、もと山元町を活気のある町にして、
人もたくさん集まる町にしなければいけないと思います。

今、このように大変な状況の中、また何もできない自分は、
少し情けない気がします。将来、山元町のためになることか
何が山には、進んで行えるようになりたいです。

8 まとめと今後の課題

今回、租税教育の中の一環として「未来の山元町を考えよう」という授業を行って、予想以上の効果を得ることが出来た。自分の住んでいる町の経済事情を中心とした実態を学ぶことで、子どもたちは「今の山元町」について深く考えることができたと思う。

東日本大震災によって、町は変わり果てた姿になった。そのような町の姿を見てきた子どもたちに、復興に必要な不可欠な予算やそれをまかなう「税」などの経済的実態について、身近な資料である広報誌を提示したことで、多くの関心を引きつける事が出来た。

授業後行ったアンケートの結果では、質問1では80人のうち65人が、税に対するイメージが変わったと回答した。理由の多くは、震災以降10倍以上必要になった町の予算に対して、人口流出による町税の減少の様子から「税を納めることは大切」というものへの変化であった。それに関連して、町の予算に対して税でまかなえる部分が少ないことへの驚きも多く記入されていた。税に対するイメージが変わらなかった生徒も、なくてはならないものであるというイメージを、今回の授業を通して改めて感じたことが窺えた。

質問4では事前調査と同様の内容を聞いた。以前と同様に公営住宅の建設や除染作業を重視すべきという生徒が多かったが、「人口流出という課題の解決」を模索する中で、「町が発展するには」ということを考えた生徒も多かった。結果、町の特産物であるイチゴ、リンゴ、ほっきなどを売り出していくために、農林水産費の割合を多くする生徒が増え、公共施設の建設などを優先する生徒が減るという変化が見られた。

質問5では、多くの生徒が山元町の予算の使い道について印象に残っていると回答し、それに関連して町税の少なさ・1万円を自分の考えで振り分けることに関心を寄せた様子が見られた。回答全体をみると、「山元町の実態」を知ることを通して「限られた税をどう使うか」考えるきっかけとなり、税への関心を深める事に繋がったと思う。

授業後の感想では、多くの生徒が沢山の感想を書いてくれた。「税などの事情も含めた山元町の今後を考えなければいけない」、「復興の為にこれほどの予算が必要だということに驚いた」、「山元町に人が来るにはどうすればいいか考えなければいけないと感じた」と感じてくれた生徒が大変多く、結果として復興への町作りの人材の一人としての自覚を持つきっかけになったと言えるだろう。

今後の課題は、「こういうことにお金をかけた方がいい」という個人の考えや判断を尊重すると同時に、町の実態を多角的に捉えさせ、考えが偏らないようにする必要がある、ということである。一人一人が町作りへの意見を持てるきっかけになったが、未だ町には多くの人々が住み、それぞれがそれぞれの考えを持ち、復興を進めていかなければならないことを改めて説明する必要がある。

また、町の実態や経済的実態を学び、自分の考えを持つ段階までが今回の授業であるので、今後「中学生としての自分が今できることは何か」というような考える力を発展させるような機会を作るのが望ましく、そのような機会と「租税」を結びつける方法も追求していかなければならないと考える。

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榊 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴 木 啓 二 郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜 代 子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真 勇 美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高野小学校	太 田 久 仁 男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にす態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひ さ 子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭 也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 藤 美保子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成 5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面ととらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものトさせる指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成 6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀬小学校	大 沼 仁	税金の必要性とその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成 7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成 8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真勇美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐々木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久美子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することがらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真理子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 鴨 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬成田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀬小学校	西 澤 勝 雄	社会科学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 原 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度) ※平成23,24年度は震災により中断

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心を持ち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亘理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 澤 泰 彰 憲 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 鴨 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亘理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵 理 子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して～
	亘理町立亘理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐 久 間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み ～小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して～
	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 ～公共施設から税金を考える～
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亘理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心を持ち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亘理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

平成25年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関 名 等	氏 名
顧 問	名 取 市 長	佐々木 一十郎
	岩 沼 市 長	井 口 經 明
	亘 理 町 長	齋 藤 邦 男
	山 元 町 長	齋 藤 俊 夫
	仙 台 南 税 務 署 署 長	長 田 克 之
会 長	山 元 町 教 育 委 員 会 教 育 長	森 憲 一
副 会 長	公益社団法人 仙台南法人会 会 長	梶 原 功
	仙 台 南 税 務 署 副 署 長	菊 池 光 夫
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署 総 務 課 長	三 々 田 智
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所 所 長	檜 村 恵 三
	亘 理 町 教 育 委 員 会 学 務 課 長	遠 藤 敏 夫
	山 元 町 教 育 委 員 会 学 務 課 長	菅 野 寛 俊
	名 取 市 校 長 会 会 長 増 田 中 学 校 校 長	佐 藤 俊 隆
	岩 沼 市 校 長 会 会 長 岩 沼 小 学 校 校 長	百 井 崇
	亘 理 町 校 長 会 会 長 逢 隈 小 学 校 校 長	庄 子 茂
	山 元 町 校 長 会 会 長 坂 元 中 学 校 校 長	岩 佐 勝
	仙 台 南 税 務 署 管 内 青 色 申 告 会 連 合 会 会 長	丹 野 義 洋
	仙 台 南 間 税 会 会 長	鈴 木 久 夫
	仙 台 南 県 税 事 務 所 所 長	中 村 信 夫
山 元 町 税 務 納 税 課 長	平 田 篤 司	
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部 支 部 長	成 瀬 廣
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合 理 事 長	藤 原 仁 昭

平成26年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）

租税教育用教材、税に関する資料等に関するご意見・ご要望を下記まで
お寄せください。

仙台南税務署（事務局）（022）306-8001 内線305